

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

長野県飯山市

2 地域再生計画の名称

地域の宝を活かす賑わい創出・旅産業おこし

3 地域再生の取組を進めようとする期間

平成 16 年度～平成 18 年度

4 地域再生計画の意義及び目標

冬期スキー観光を柱に産業が発展してきた当市は、少子化、レジャーの多様化などにより平成 5 年をピーク（1,870,000 人）に観光入り込み客数、観光消費額ともに減少を続けてきた。

このような状況下で本市は、冬期観光地から脱却し通年観光地としてのポテンシャルを高めるために、行政が主導し全国に先駆けて平成 6 年度から農業体験、自然体験を核としたグリーンツーリズム事業を展開してきた結果、観光入り込み客数の動向を見ると平成 13 年に夏期観光入り込み客数が年間のほぼ半数（868,000 人）を占めるまでに発展してきている。

しかしながら、全国各地で地域の特色を生かしたグリーンツーリズム事業が展開されており、新たな戦略を展開していかなければ全国の類似したグリーンツーリズム事業に埋没してしまう懸念があることから、当市の独自色を出した新たな提案をしていく必要がある。

新たな提案として本市では、これまでの雪や豊かな自然など地域にある資源に加え、この地特有の食べ物（アスパラガス、キノコ類など）や食文化、伝統的工芸品である飯山仏壇や内山和紙、もてなしの心を備えた人柄・風土、城下町・寺のまちなどの歴史を「地域の資源（宝）」として位置付け、その発掘と活用を図ることで通年観光地としてのポテンシャルをさらに高め、交流人口の拡大と定住への誘導をねらいとした「飯山市旅産業にぎわい創出関連事業」に取り組んでいく。

具体的な取り組みとして、平成 16 年度から「地域資源の活用」「交流人口の拡大」「旅産業基盤整備」を柱に、主な事業として以下の事業を展開する。

観光案内人養成事業…市民を対象に講座を開催して、もてなしの心を醸成し、風土や食材、文化、歴史などの地域資源への理解を深めながら、市民一人一人が案内人になりうる人材育成を図る。

交流人口拡大事業…市街地を会場にした「いいやま雪まつり」や「奥信濃特産まつり」、フレンドリーフェスティバルに加え、飯山市の伝統的工芸品である内山和紙を活用した灯籠を商店街に設置し、「和紙の里飯山」のイメージを定着させるためのイベントとして夏まつり（灯籠まつり）を開催し、市民向けのイベントから交流人口の拡大につながるイベントにして、市外からの観光客の誘客につなげる。

観光カリスマリレー講演会の開催…観光案内人養成講座を開催し、全国で観光カリスマとして活躍されている方々を講師に招き、観光の現場で得られた知識や経験を学び、

実践することによって観光地としてレベルアップを図る。

山林体験型産業創出事業（トレッキングルート整備）…地域資源である山林・里山を活用し、トレッキングルート整備、里山整備を行い、グリーンシーズンの新しい観光商品として売り出すことにより誘客につなげるとともに、小中学生を対象とした体験学習の場としての活用も進め、自然環境の保全思想の普及も図る。

グリーンツーリズム事業…これまで実施してきた都市と農村の交流事業を発展させ、農村への定住に結びつけるために、田舎暮らし体験の場の設定や住まいのあっせん、職業紹介などの情報提供をトータルで行う「飯山市ふるさと回帰支援センター」の機能を強化し、定住人口の増加につなげる。

以上の事業は、地域の資源を再発見、再利用し、市民が主体となって行うものであり、これらの多様な事業を有機的に連携させながら推進することで、地域の宝を活かしたにぎわい創出・旅産業おこしを実現させる。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

交流・定住人口の拡大策として位置付けている本計画により、観光客が冬期に集中していたこれまでとは異なり、グリーンシーズンの観光客増加につながるものと見込まれ、減少傾向が続く本市の観光入り込み客数に歯止めをかけ、増加させることができる。

このことは、グリーンツーリズム事業を展開し始めた平成6年度以降における夏期の観光客入り込み状況（別添のとおり）を見ても明らかであり、本計画による事業展開がされ、トレッキングルートの整備などによる観光商品化を進めることで、観光入り込み客数は年1～2%（15,000人～30,000人）増加し、これに伴う観光消費額も800,000千円～1,500,000千円程度増加することが見込まれる。

また、本計画のベースにある飯山市旅産業にぎわい創出関連事業は、市民レベルでの意見、提案を事業化するものであり、市民手作りの旅産業関連事業に対し、地域再生計画として国からも支援されることになれば、「地域が自ら考え、行動する。国は、これを支援する」という、本計画の趣旨に合致することになり、市民レベルでの主体性を発揮した地域づくりに拍車がかかるものと期待される。

6 講じようとする支援措置の番号及び名称

- 10804 生涯学習まちづくりモデル支援事業
- 201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
- 212002 道路占用許可弾力化（オープンカフェ等）
- 212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実
- 213004 エコツーリズムに対する支援
- 230004 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の連携強化

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取組その他の関連する事業

- ・山林体験型産業創出事業（トレッキングルート整備ほか）

長野県の単独補助事業（地域はつらつ産業プロジェクト支援事業）を導入し、『斑尾・黒岩・鍋倉「いい山・里山」ルネッサンス推進協議会』が事業主体となって、関田山脈トレッキングコース整備および森林整備を行い、整備したトレッキングコースおよび森林環境フィールドを活用して、トレッキング商品・森林体験メニュー創造する。

【事業主体】

斑尾・黒岩・鍋倉「いい山・里山」ルネッサンス推進協議会

構成団体...（財）飯山市振興公社、NPO 法人 信越トレイルクラブ、天然記念物黒岩山保全協議会、まだらお高原ゆき椿の森整備の会、斑尾高原観光協会、戸狩観光協会

【事業期間】

平成 15 年度～平成 17 年度

【事業費】

44,300 千円（長野県補助金 30,000 千円 飯山市補助金 3,000 千円 自己資金 11,300 千円）

【事業概要】

- ・関田山脈トレッキングルート整備事業（標高 1,000m 延長 40km）
- ・天然記念物黒岩山整備・保全事業（下草刈り、ギフチョウ・ヒメギフチョウ個体調査および保護活動）
- ・斑尾高原ゆき椿の森整備事業（森林体験空間の整備）
- ・観光商品企画開発および誘客宣伝展開事業（宣伝用パンフレットの作成、ルートマップの作成）

- 8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
特記事項なし

別紙

1 支援措置の番号及び名称

10804 生涯学習まちづくりモデル支援事業

2 当該支援措置を受けようとする者

長野県飯山市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

交流人口拡大策の基盤整備を行うため、市民のもてなし機能を拡充するための人材育成事業の一環として、生涯学習まちづくりモデル支援事業の指定を受け、信州大学及び高等教育機関との連携を図りながら、以下の事業を展開しまちづくりを推進する。

生涯学習のまちづくり計画推進のための情報提供・広報

- ・「学習の里としての飯山」ブランドを高めるために、信州大学と「学習のまちづくり支援協定（仮称）」を締結し、生涯学習情報の提供を行う。
- ・「学習の里としての飯山」を全国に発信するために、今年度、飯山市で開催予定の「農業体験学習会全国NPOサミット」の報告書を発刊する。

学習グループ・団体への支援指導者の研修

- ・飯山市ならではの食材（アスパラガス、キノコ類、山菜、そば、米など）を使った郷土料理の味を後世に伝えるため、味の伝承を目的に「いいやま食の匠養成講座」を開講する（食の寺子屋）。

住民の学習活動支援（雪国寺子屋）

- ・雪国ならではの文化や風土をテーマした講演会を開講し、雪国の良さを再発見する（いいやま雪国大学）。
- ・集落単位、地域単位に設置されている公民館の学習活動に対する支援を行い、集落や地区が有する資源の再発見を行い、その活用策を研究する。
- ・地場産品の活用策などを目的とした経済団体（飯山商工会議所、北信州みゆき農協など）が行う学習・研究活動に対して、講師等を派遣し支援する。
- ・市民のもてなし機能の充実に目的として開催する「飯山案内人講座」など、住民の自主学習活動団体へ対して指導・援助を行う。

まちづくりフェスティバルの開催

- ・農業体験学習に取り組む全国のNPOを飯山市に集め、全国サミットを開催して、「農業体験学習のまち飯山」を全国に発信するとともに、情報交換を通じて新たな取り組みへのステップとする。
- ・飯山市の特産物を使用した料理の開発と普及を目的に、「いいやま食の文化祭」を開催し、新たな地域資源を掘り起こす。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化

2 当該支援措置を受けようとする者

J A 北信州みゆき農協、飯山商工会議所、飯山仏壇事業協同組合、本町商店街協同組合

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

市街地を会場にした「いいやま雪まつり 主体：飯山商工会議所青年部（２月）」、「奥信濃特産まつり 主体：飯山仏壇事業協同組合（７月）」、「フレンドリーフェスティバル 主体：J A 北信州みゆき農協、飯山商工会議所（１１月）」など飯山市を代表するイベントを開催している。

これらに加え、「夏まつり（灯籠まつり）：主体 本町商店街協同組合」を新たに開催することを検討しているが、この夏まつりに合わせて、飯山市の伝統的工芸品である「内山和紙」を利用した灯籠を商店街に設置し、「和紙の里飯山」のイメージを市外にアピールする。今後の戦略としてイベント開催を市民レベルのイベントにとどめるのではなく、交流人口の誘導・滞留策として活用していく。

なお、これらのイベントの実施にあたっては、当該支援措置により発出された通達に基づき、地域住民、道路利用者等の合意形成の円滑化に努める。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212002 道路占用許可弾力化（オープンカフェ等）

2 当該支援措置を受けようとする者

J A 北信州みゆき農協、飯山商工会議所、飯山仏壇事業協同組合、本町商店街協同組合

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

市街地を会場にした「いいやま雪まつり 主体：飯山商工会議所青年部（2月）」、「奥信濃特産まつり 主体：飯山仏壇事業協同組合（7月）」、「フレンドリーフェスティバル 主体：J A 北信州みゆき農協、飯山商工会議所（11月）」など飯山市を代表するイベントを開催している。

これらに加え、「夏まつり（灯籠まつり）：主体 本町商店街協同組合」を新たに開催することを検討しているが、この夏まつりに合わせて、飯山市の伝統的工芸品である「内山和紙」を利用した灯籠を商店街に設置し、「和紙の里飯山」のイメージを市外にアピールする。今後の戦略としてイベント開催を市民レベルのイベントにとどめるのではなく、交流人口の誘導・滞留策として活用していく。

これらのイベント開催にあたっては、当該支援措置に基づくガイドラインを参考にし、取り組みを進めていく。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

212016 「一地域一観光」を推進する「ひと」「情報」の充実

2 当該支援措置を受けようとする者

長野県飯山市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

当市では、スキーを中心とした冬期観光地から通年観光地への転換を図るべく、グリーンツーリズム事業などに取り組んできたが、そのメニューは農業体験、自然体験の場を提供する程度にとどまっている。

これまでの実践の中で、農業体験や自然体験のインストラクターの不足による観光サービス水準の低さ、観光業者および市民の観光客に対する受け入れ態勢(姿勢)の不備、地域資源を観光資源としてとらえ、活用しようとする意識の希薄などが、反省・改善点として挙げられている。

このような状況を打破し、観光地としてのレベルアップを図るために、平成16年度に実施される支援措置を活用し、観光地を支える人たちの人事育成、地域資源の再発見による観光資源の発掘を行う。

これらを踏まえ、飯山市においては、人材育成では、飯山市の地域資源である自然や伝統文化、歴史、特農産物などを学び、観光客に自信を持って案内・紹介できる人材の育成を目的とした「観光案内人養成講座」の開講、全国の観光地の先進事例・取り組み状況を学ぶための「観光カリスマリレー講演会」の開催、観光客を市民レベルでお迎えし、心からもてなすという機運を醸成させるための「おもてなし講習会」の開催などに取り組む。

また、観光資源の発掘では、「ビューポイントの選定と案内」や地域資源を活用した新たな観光商品(トレッキングルート整備など)の開発を行い、「観光地飯山」のポテンシャルを高め、全国に情報発信を行う。

別紙

1 支援措置の番号及び名称

213004 エコツーリズムに対する支援

2 当該支援措置を受けようとする者

長野県飯山市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

本市に残された「手つかずの自然」を、自然の保全に配慮しながら観光資源として活用していくため、観光業者をはじめ関係団体に呼びかけて、飯山市の「エコツーリズム思想」の確立と普及を目的に、環境省が提供する予定である推進マニュアルやエコツアーに関する情報提供の支援を活用しながら、本市が飯山市エコツーリズム推進協議会を設立し、エコツアーの企画・商品化、誘客宣伝等を行い、交流人口の拡大につなげる。本市が行う事業概要は下記の通りである。

【事業概要】

エコツーリズムの思想を普及させるためのシンポジウムの開催

飯山市に残された「手つかずの自然」の資源調査（資源発掘とモニタリング）

自然の保全をルール化（基本計画の策定）した、飯山市独自のエコツーリズムの確立

飯山市が有する資源、新たに発掘された資源を活用した自然体験プログラムの策定と、

誘客できる観光商品としてのエコツアーの開発

地域資源を観光客に案内、説明できるガイド等の人材育成

誘客宣伝用パンフレットの作成と情報発信

【想定されるエコツアープログラムの内容】

里地里山における自然体験

- ・ 標高 1,000m 延長 40Km に整備された関田山脈トレッキングコースを活用したトレッキング

- ・ ぶな原生林（鍋倉山、斑尾高原）の観察

- ・ 棚田百選に選ばれた福島棚田を活用した農業体験

環境保全活動（里山や植林の管理）

- ・ 下草刈りやギフチョウ、ヒメギフチョウの生態調査など、ギフチョウ、ヒメギフチョウの混生地として指定されている、天然記念物「黒岩山」の保全

- ・ ぶな原生林の間伐

- ・ 千曲川の清掃

地域の産業や生活文化の活用

- ・ 飯山市の伝統産業である飯山仏壇、内山和紙の体験

- ・ 飯山愛宕町周辺の仏壇通り、寺めぐり遊歩道の活用

- ・ 小菅神社修験道の道の散策

別紙

1 支援措置の番号及び名称

230004 都市と農山漁村の共生・対流に関する施策の強化

2 当該支援措置を受けようとする者

長野県飯山市

3 当該支援措置を受けて実施し又はその実施を促進しようとする取組の内容

都市と農村の交流を目的としたグリーンツーリズム事業を展開している当市では、これまでの「短期滞在」から「中期滞在」、さらに「長期滞在（定住）」へ結びつけるための取り組みを行ってきた。

この取り組みの主体は「飯山市ふるさと回帰支援センター」であり、田舎暮らし下見ツアーの実施や田舎暮らし体験の場の設定を行ってきたほか、住まいの情報提供とあっせん、職業紹介などの情報を提供している。

飯山市ふるさと回帰支援センターでは、今後、現役をリタイアする団塊の世代の中で高まるであろうふるさと回帰指向を的確につかみ、当市に定住できる条件を整備することで定住人口の増加を目指しているが、設立後間もないため、具体的な取り組みは限られたものとなっている。

当該支援措置により関係省庁の施策連携が強化され、共生・対流を推進する施策の情報が増えることにより、推進施策を最大限に活用して、本市が目指す「交流」から「定住」に結びつけるプランが策定できる。